



子供達の自然体験活動の提案

NPO法人つるがしま里山サポートクラブ

はじめに

NPOつるがしま里山サポートクラブは、市民や子供達に自然体験活動を通じて、里山（自然）の大切さを感じてもらいたいと活動しています。

クラブ立ち上げの最初の活動は、2003年4月、「五味ヶ谷市民の森」でのタケノコ掘りでした。

11月には学童クラブと「森の作業と芋煮会」等も行いました。

その後、「不登校生の自然学習支援」、「藤小学校の野外学習の支援」、「市民のボランティア体験」等も行ってきました。このような子供達との活動を約20年積み重ねています。

「自然体験の中で遊んでいた人ほど、社会を生き抜く資質・能力の高い大人になる!」と言われていま

す。自然体験活動は、自然の中での教育として、教育指導要綱にも取り入れられています。

全国では、保育園や幼稚園、小学校等で「自然保育」「自然学習」などが始められているようです。

私たちの子供達の自然体験の取組をご紹介して、市内の保育園・幼稚園、小学校に自然体験活動を紹介して、先生方にも自然体験をしていただき、保育、教育活動に取り入れてもらいたいと考えています。

2022年3月

特定非営利活動法人つるがしま里山サポートクラブ
代表理事 小澤邦彦



目次

1.自然体験活動の取組	3
—子供達に自然体験を通じて里山を次世代へ残したい—	
2.鶴ヶ島の自然体験空間としての里山	4
—鶴ヶ島は、自由に利用できる市民の森が多い—	
3.学童保育と里山サポートクラブについて	5
もう30歳を超えた子供達も言います。面白かったよね！昔は良かったよね	
4.活動実績	6
5.子供達の自然体験に思うこと	8
6.色々な自然体験プログラム	10
7.今後の自然体験の取組について	11

1. 自然体験活動の取組

子供達に自然体験を通じて里山を次世代へ残したいー

子供の心のケアに野外遊び場を活用する事に接したのは、2012年6月に2回目の気仙沼の唐桑に復興支援活動を行った帰りに「気仙沼あそびーばー」を訪れた時です。「気仙沼あそびーばー」は、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会による支援活動で始まったもので、震災を経験したこどもたちの心のケアを目的に開かれました。この時の経験により、鶴ヶ島でも、子供たちが思い切り遊びまわれる自然環境が必要と考える友好団体と、2013年8月に「第1回プレーパークまつり」を藤金市民の森を会場に開催しました。その後毎年、高倉市民の森、藤金市民の森、五味ヶ谷市民の森を会場に里山体験会を開催しています。



市民の森の整備は、枯れ木や倒木を伐採し、若い樹木が育つ環境を作ります。下草を刈り明るい森づくりを行います。オオブタクサなど特定外来種の駆除を行っています。河川では、ゴミ拾いや流木排除を行い水の流れをなめらかにします。

整備した市民の森で自然体験をすることで、大人になって、森がなくなる事態が発生した際、森の消失に反対してくれることを期待しています。

森は若い樹木の生長に合わせて光合成により酸素が発生し、枯れ葉に覆われた林床は、堆肥となり、豊潤な土壌を形成する。木陰と小川により、温度調整された森を体感出来ます。

竹林の竹を使った竹細工や、タラの芽・茗荷などの森の恵みにふれる様々な活動を行っています。

また地域支え合い協議会や学童クラブ、学校と連携した自然学習などを行っています。



この自然体験活動には多くの方々や団体の連携によって実現しています。

里山サポートクラブの活動

- 1.市民の森の整備(五味ヶ谷、藤金、高倉)
- 2.飯盛川、大谷川の清掃活動
- 3.自然体験イベント
- 4.小学校の自然体験学習支援
- 5.ボランティア体験活動
- 6.木工教室
- 7.植樹活動千本桜
- 8.里山保全活動の普及
- 9.その他の取組

- ・市内の気温調査(23ヶ所、常時観測)
- ・市民団体との協調活動
- ・環境フェアへの展示

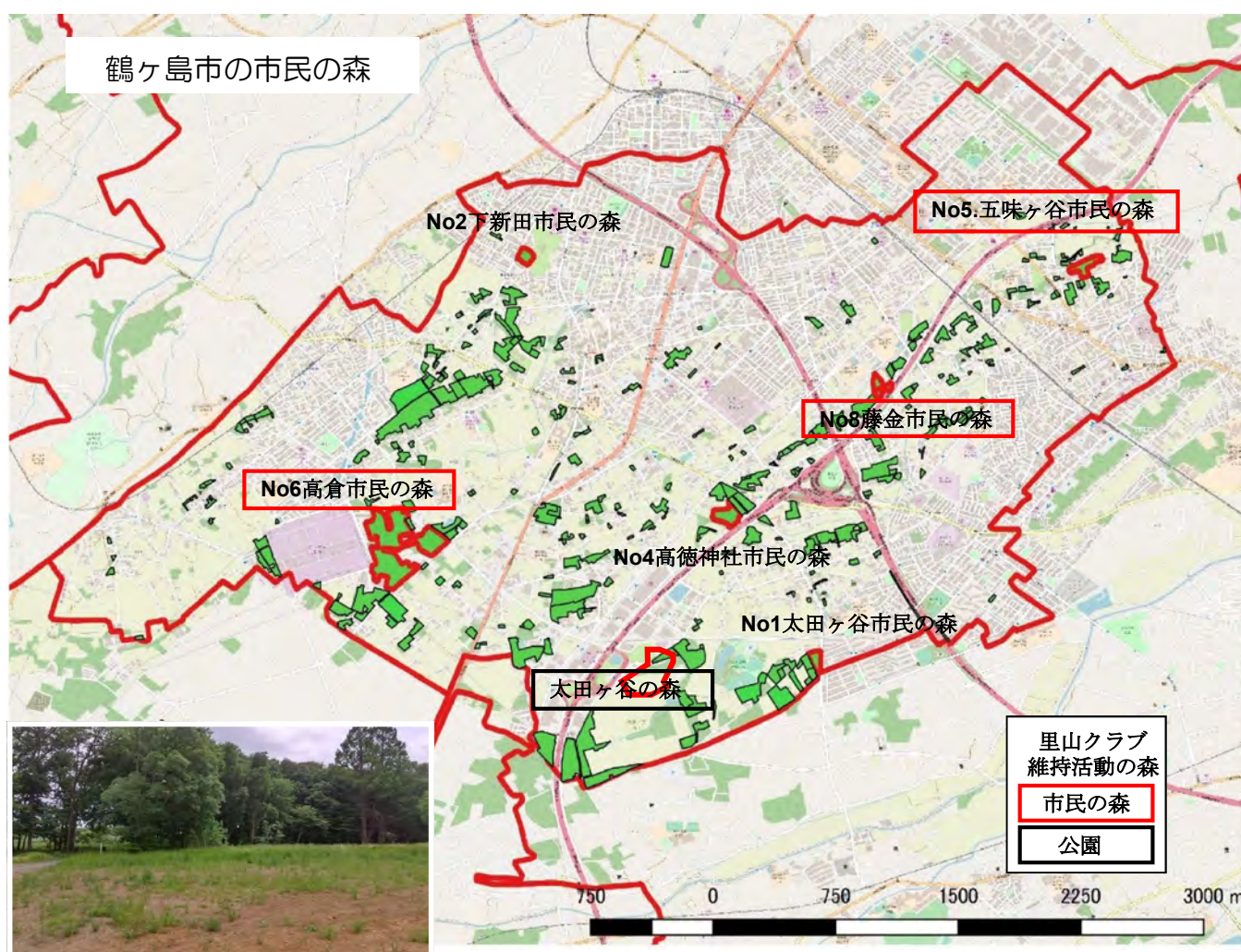


2.鶴ヶ島の自然体験空間としての里山

鶴ヶ島は、市民が自由に利用できる市民の森が多い

鶴ヶ島市には、市民が自由に利用できる里山が13.5ha、都市公園などが41.1haあります。あわせて、54.5haで、一人あたり6.8m²あることとなります。里山の森としては市民の森、太田ヶ谷の森5.6haを合わせて19.1ha、一人あたり2.7m²の樹林地が自由に利用できる空間があることとなります

NPOつるがしま里山サポートクラブが維持管理している市民の森は4ヶ所、高倉市民の森(8.4ha) 藤金市民の森(1.1ha)、五味ヶ谷市民の森(0.9ha)と太田ヶ谷の森(5.6ha)となります。また、これらの森が、つるがしま里山サポートクラブの活動の場となっています。



太田ヶ谷の森



五味ヶ谷市民の森



藤金市民の森



高倉市民の森

3.学童保育と里山サポートクラブについて

もう30歳を超えた子供達も言います。面白かったよね！昔は良かったよね

私たちの活動の目的である「子供達に里山を残したい」思いを、子供達の自然体験により感じてほしいと思っています。

会員の石川さんの子供の保育に対する思い、学童保育のご経験を通じた、自然体験の大切さをご紹介します。

学童保育について

もう20数年になるのでしょうか？保育園の子供達に対する設定保育に疑問を持ったことと転居により最後の職場として選んだのが鶴ヶ島市学童保育室でした。保育園児よりもっと本音で付き合えることが魅力でした。

当時の学童の保育目標は“生きる力をつける”でした。当然おやつも子供と一緒に作る。片付けも食器を洗うのも子供達。自分のことは自分で考え行動する。

学校から帰って来て学校での重荷を下し、親とは種類の違う大人との解放された時間、自分自身でいられる時間をどう魅力的に作ろうかと努力する指導員がいました。

石川 利江

学童はゲームもテレビもない！あるのは時間と自然いっぱい環境と見守ってくれる近所の方でした。私の勤務していたのは鶴ヶ島の一番西側のこれから区画整理が始まろうとしていた地域でした。住人もとても素朴で繋がりが深い人々でした。

毎日子供達が“今日は何しようかな！”と走って帰って来ます。近所の庭に入り込んでのかくれんぼ、近所の牧場で牛に触ったり、木にロープを結んでブランコをしたり、穴を掘って家を作ったり、暗くなるまで遊んでいました。まだまだ制度化される前の学童ですから万年人手不足。森には行くが、子どもの要求に力不足で扱えない。そんな時、里山サポートクラブとの出会いがありました。

里山サポートクラブとの出会い

子供達に森を残したい。森で伸び伸びと色々な体験経験をして貰いたい！それを次の世代に伝えて欲しい！もう私が思っていたこととぴったり。

これを使わない手はない！いい保育が実践できるぞ！とすぐに入会。フィールドが広がりました。そして魅力的になりました。

具体的活動

里山主導・・夏休みの森でのオリエンテーリング、森の中にコースを作ったのクロスカントリー大会、森の掃除、川に生息している魚探し、ターザンロープの設置、ほたる鑑賞、おおむらさきの飼育等

学童主導・・森で食べられる植物を摘み天ぷらにして食べる、みそ汁にする。

野イチゴでジャムつくる、ほたるを飼う、おおむらさきの観察、いなご捕り

週1回の森クラブでの活動、里山の活動への参加今思うと時代が良かった！と言えばそれまでですが様々な事が大人の心意気でできました。

自然の中で遊んで、危険を知ったり、仲間と助け合ったり、共有したりということが自然に出来ました。そしてそれは私が一番望んでいた事でした



大人になった学童の子

もう30歳を超えた子供達も言います。面白かったよね！昔は良かったよね！と。みんな、心優しい大人になっています。こんな保育の結果はすぐには出ません。でも心は育っています。今は意識しなければ出来ない保育になってしまいました。

安全・安心も大事ですが体験経験は体の中に生きます。これからはカテゴリーの中だけではなくそれ

を基礎に自然・森を共通の場所としてもっと地域をも巻き込んで繋がりを作っていくことが、必要だと感じています。

これからどんな時代が来るのでしょうか。

どんな時代が来ても水・火・土に敬意をはらって大事にして使って貰いたいものです。

4.活動実績

各種自然体験活動

1.市民の皆さんとの自然体験

①子供達の自然体験

初めての森の体験として、ツリーイングやハンモックでの遊びから体験してもらうことから始めるイベントです。



②タケノコ掘り

クラブ設立以来取り組んでいる活動で、毎年4月～5月にかけて、子供達の自然の恵みの体験として、取り組んでいます。自ら掘ったタケノコに対する思いを感じてくれています。



③植樹祭

太田ヶ谷の森づくりに、子供達に植樹をしてもらっています。30年後の森を大人になった子供が子供を連れて森散歩してくれることを、夢を見ながら、取り組んでいます。



④中高生のボランティア体験

市民の森の整備活動に参加する中高生のボランティア体験で、毎年、中高大学生の参加が増えています。

⑤アペルト自然学習

自然の中で多様な個性を發揮してもらいたいと、毎年取り組んでいます。

⑥小学校の自然体験学習の支援

藤小学校の3年生の総合的な学習講座として、「市民の森の自然体験学習」を実施しました。7月、9月に自然体験学習を行い、その報告会を11月

に藤金市民の森で実施しました。この学習プログラムで、森のなかでの発見、興味、疑問など、沢山の体験を楽しみました。



生徒達の自然体験の発見や学びの発表会

..この結果は、素晴らしい「藤金市民の森 すてきな森の発表会」となりました。

3年生の発表

⑦市民の森の木の実・葉

- ヘビイチゴは春に花が咲き、実をつける
- 葉を踏んだ、トゲはかくとういう、ブナの仲間、幹は堅く、水に強い
- ヤマザクラの花は5枚、円形、大きさは2.5-3.5cmほどの時はピンク色、薄いピンクになると咲く

⑧市民の森の世の種類の

- メダカは竹に、にているが、ササのなかま
- メダカに比べアズマネザサの葉はたれ下らないことがわかった
- ササは常緑多年植物 大谷川にドジョウ、ギンナ、カウムシなどがいる

①大谷川のアメンボ・魚

- アメンボはたくさんいた。触角と手を使って泳ぐことがわかりました
- 大谷川にすんでいる魚は、ドジョウ、ギンナ、川虫、タモロコ、オオクチバスアブラ、ハヤ、カダヤシがいる。カダヤシ、オオクチバスは外来種で日本の魚を全部食べてしまう。

⑥市民の森のヤマザクラ

- ソメイヨシノは桜科、花のあとに葉が開く。
- 若枝・葉の下面・葉柄に毛が発生する
- ヤマザクラはバラ科 実はあか色。
- 白い花と赤い葉が同時に開くことを知りました。
- 市民の森には 42 種類の木がある。

3年1組の発表

- 大谷川の水の温度は、冬 15℃、夏 25℃
- カダヤシ、オオクチバスは外来種で日本の魚を全部食べてしまう。
- アメリカザリガニで呼吸、1927年食用蛙のえさとして輸入されたこと知りました。
- ササは常緑多年植物、ヤマザクラは白い花と赤い葉が同時に開く

②大谷川・スジエビ

- 外来種のコイやカダヤシがいました
- スジエビは透明で在来種というのを知りました。
- 川の深さと温度で西大谷川と越辺川には段差があり、魚は、登れないそうです。
- 水の温度は、冬 15℃、夏 25℃あることを知りました。

⑤市民の森のコナラ、シラカシ、ヤツテ

- 市民の森には40種類以上の木があるのとことと、ほかの種類の名前を調べました。
- 市民の森にはいろいろな木があり、はじめて木の名前を知りました。
- コナラは紅葉すると黄色と赤色になり、葉はドングリになる
- たくさん木の中にシラカシという木を知りました
- クヌギには虫が集まることを知りました。
- 市内の3本の川には生き物のえさがたくさんいます

④アリ・カブトムシ、

- 6種類以上の虫、カブト、クワガタがいるのがわかりました。
- 森には、ミヤマキリやタムシ、クロオアリがいました
- アリジゴクはかま状の太い管を持ち、乾燥した土を録状に掘り巣を作ることがわかった
- シオカラトンボが水田、沼にたくさんいることがわかった
- オニヤンマの大きさを調べ、夏から秋に小川にいる。

③大谷川ザリガニ

- アメリカザリガニは1927年食用蛙のえさとして輸入された外来種です。
- ザリガニはエラで呼吸している。
- ザリガニははさみで相手を感じます。はさみを捕まると、自分ではさみを切り落とすので逃げます。これを自切りといいますが、はさみは再生します。
- 市民の森で、竹細工でカブト、川遊び、木の名前付けなどをしました。
- ササは常緑多年植物で6-8月、森の昆虫は13種類いと知りました。

5.子供達の自然体験に思うこと

子供たちと竹細工

佐野英樹

「竹細工をやるよ!!!」と言うと、ほとんどの子供が「何を作るんですか?」と訊いてきます。

「何を作ってもいいよ。手伝うよ!!!」と言うとちょっと困った顔をします。竹を知らず、竹製品が身近にない子供たちにとっては当然なのかもしれません。

竹で出来たおもちゃで遊んだことのない子供には作る物のイメージがわからないのでしょうか。

ナタで竹を割ってみせるとびっくりしています。

若い竹で作ったブンブンを顔の前で回すと竹に含まれている水分が飛び出し顔にかかります、これにもびっくりしています。時々竹トンボを作りたいという子供がいますが、よく切れるナイフがあり、それを上手に使えないと出来ない工作であることを知りません。そんな子供たちも、ノコギリで竹を切ることから始めると、だんだんと慣れてきて思い思いに遊んでいます。

よく作るのは、コップ、貯金箱、ケン玉、ぼっくりなどです。遊んだ後は、お母さんの困り顔を横目に、得意顔で作品や切れ端までも持ち帰ります。

竹のことを知り、道具を使いこなせるようになると、竹細工の面白さが分かるようになると思いますが、残念ながら竹細工で遊ぶ機会があまり無いようです。

一方でこんなこともあります。

以前、キャンドルナイト(夏至のイベント)で灯す竹灯りを作ったことがありました。すばらしいアイデアで見事な竹灯りを作った子がいました。この子に、よく知った材料を与え、使い慣れた道具を持たせたらどんなにか素晴らしいものを創るのではないかと想像してしまいます。

こんなことを考えながら、少しでも子供たちが鶴ヶ島の自然に親しむお手伝いが出来ればと思っています。



里山サポートクラブのみなさまへ

市民の森で竹ざいくを作ったり、ハンモックや森のたんさくなどの学習をさせてもらいありがとうございます。ぼくは人工で作った森なのに天然のなめこや竹林がたくさんあっておどろきました。たぶん、この森はとても大切にされてきているのだとお

栄小学校五年加藤遼祐

もいます。今の時代は建築物がたくさん建てられ森が少しずつ減少しています。僕は森で生き物とふれあうことが好きなので少しかないです。なので市民の森があってよかったなと思いました。



小学校の野外学習について

吉井 優

2016年に異動により藤小の校長となった向田校長先生の発案により3年生の担任から里山サポートクラブに野外学習支援の依頼があったのが、そもそもの始まりです。藤小の要望に応じて、大谷川の魚とりで特定外来種カダヤシの駆除を行ったり、森の動植物の生態について紹介しました。その後我々



の得意技である竹細工とハンモック遊びを毎年行い、有意義な体験と森の楽しさを伝えています。毎年11月に開催してきた「森の発表会」は、藤金市民の森を会場に、児童が自分たちで調べた森の生態系について発表するイベントです。

父兄や地域の大人も発表を聞きに来て、皆さん感激する発表会になりました。なお、その後向田校長が栄小学校に異動すると、五味ヶ谷市民の森で昨年から5年生の野外学習が始まりました。参加した児童から毎年感想文をいただきますが、いろいろな発見があり好評です。

小学生に生態系サービスの説明はしませんが、市民の森を体験することは、様々な生態系サービスを体験することです。森の大切さを感じて豊かな心を持つ大人に育ててほしいものです。

ボランティア体験の感想

自分は2月26日に同場所で開催される門松教室の材料として用いる竹の作業に参加しました。竹の伐採では、集まった人たちがそれぞれ伐採、枝切り、運搬、切断作業、バンブーチップ作りと分担して作業に取り掛かりました。里山サポートクラブの皆さんに説明を受けつつ日々のことについてコミュニケーションを行ったことで、活動を通して地域の方との距離を縮めることが出来ました。一番印象が強かったのは竹の伐採で、今まで経験したことがない作業であり、倒れる位置を調整しつつ伐採するには工夫を凝らして行いました。自分の目測以上に長い竹がバキバキと倒れるのは壮観で、貴重な体験にな

城西大学学生 湯本健琉

りました

活動に参加し、良い結果を生み出そうと準備する人々の大変さを知り、その意識の大切さを学びました。地元に戻る機会があれば、地域の行事に積極的に参加していければと思います。



子供たちの自然体験活動に参加して

柏木美之

私が環境保全系のボランティア活動に参加するようになって15年近くになります。その間には小中学生の授業の一環としての「体験学習」をお手伝いすることもありました。

その中で驚いたことを紹介します。

1. 「私はマムシを捕まえる事が出来る」という中学生がいたこと。おじいちゃんに教えてもらったそうです。
2. 中学校の体験授業で、「鎌」を持って来て中学生が草を刈ったこと。この判断をした先生には頭が下がります。
3. 森の中での作業なのに半袖半ズボンでくる子供が多いこと。虫刺されや植物のとげなどでケガをすることを多くの先生も想定していない（知らない）のでしょう。

4. 「森の中でゲームして走ったら、学校の中でも転ばなくなった」と発表した小学生がいたこと。家の中で転んで骨折する高齢者の話を思い出しました。
5. 「オオムラサキの幼虫を観察してもらおう」という企画の時、「自分は虫が苦手なんで結構です」と断る男子中学生が多数いたこと。

今でも自然の中から学ぶことは多いと思っている中での出来事なので、いろいろ考えさせられました。

様々な可能性を秘めている子供たちには、是非「自然の多様性」や「可能性」を体験して「自然との付き合い方」を身に付けて欲しいと思います。

親子でタケノコ掘体験：五味ヶ谷の森

佐野英樹

2003年につるがしま里山サポートクラブが発足し、創立草々の4月19日にはタケノコパーティーを開催しています。その後、東公民館（現東市民センター）まつりに合わせて、たけのこ汁&竹林保護キャンペーンを実施し、2008年からは、開催時期を5月5日に移し、「お母さんのタケノコタイム」と名付けて開いています。2016年からは、「地域の恵み、親子で楽しむタケノコ掘り体験会」と名を変えました。2018年からは100人以上の皆さんが参加しています。

今年の「タケノコ掘り」は新型コロナウイルスによる感染症の蔓延の中で何とか開催できました。このイベントは、自分でタケノコを掘り、皮をむき、調理してその場でいただくという、子供たちだけでなく保護者の皆さんも楽しみにしている、地域に密着したイベントになっています。

今年は4月24日に37組112人、5月5日に29組93人の皆さんが参加されました。今年はタケノコの数が少ないこともあり、一組一本と制限し

ました。小さくまでしたが皆さんにタケノコを持ち帰っていただきました。

京都に住む孫娘が、今は高校3年生ですが、タケノコの季節になると鶴ヶ島で食べたタケノコのフォイル焼がおいしかったと今でも話すそうです。

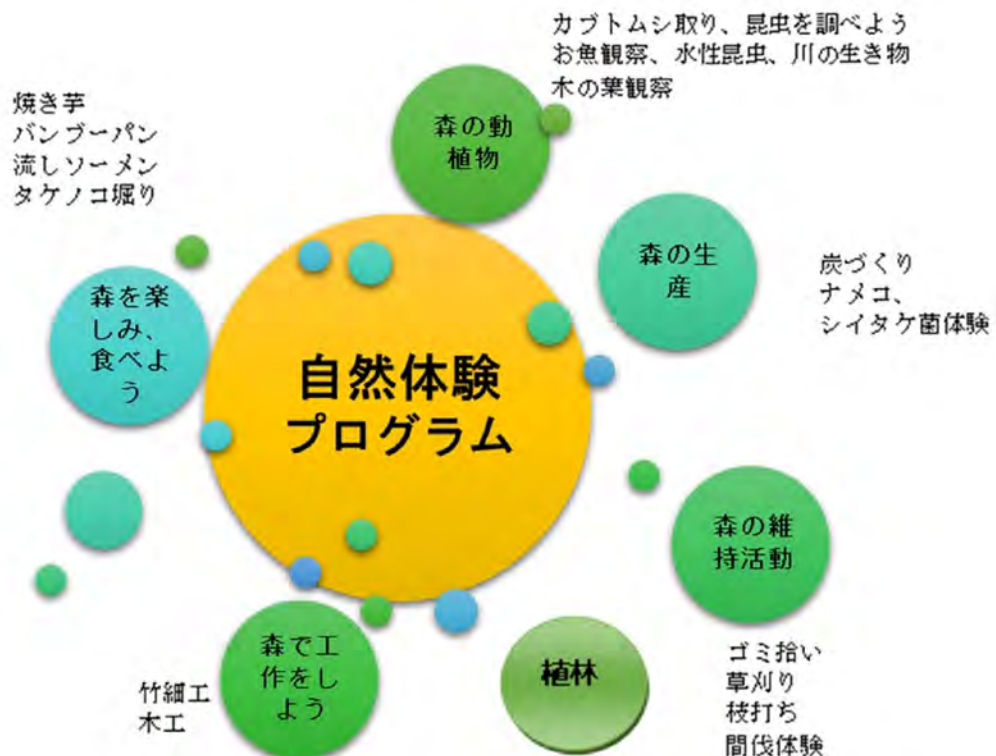
子供たちに、自分で掘ったタケノコをその場で調理して食べたことが懐かしく楽しい思い出として長く残り、それが鶴ヶ島の緑の保全への関心に広がることを期待してこれからも活動を続けてゆきたいと考えています。



6. 色々な自然体験プログラム

これまで、取り組んで来た自然体験活動の中で、組み合わせてきたプログラムは、次の様なプログラムがあり、各種のイベントで組み合わせながら実施しています。

子供達は、川の生き物調査や昆虫探し、竹細工などを楽しんでいます。。



7. 今後の自然体験の取組について

「生きる力」を育む 自然体験効果

子供達の自然体験の効果は、欧米や日本でも議論されるようになりました。

子供達の自然体験の取り組みは、IQなどで示される知能指数とは異なり、目標に向かって頑張る力、人と上手に関わる力、自信等、いわゆる【生きる力】を育てることにつながるといわれています。

特に、生きる力は、幼児期における【遊びの中】で育まれるといわれ、「子供達の感動」や「挑戦的な活動」が出来る環境が必要だといわれています。昔は、近所の自然の中で、培われていました。現在は、自由に利用できる自然が少なくなり、自然体験が難しくなっているといわれています。

今の時代に求められる能力は、与えられた知識の

再生産ではなく、幅広い知識と柔軟な思考に基づき、新しい知や価値を創造する力、自ら課題を発見し解決する力、コミュニケーション能力、物事を多様な観点から考察する力といった「非認知的スキル」であり、それを育む教育です。

一人一人が自立した人間として主体的に判断し、社会の中で新たな価値を創造する人材の育成と、他者と協働して何かを成し遂げる力を育てて行くことが重要です。“自然の触れ合い”常に変化する生きた動植物が存在し、地形や土壌の条件も変化に富み、流動性のある「自然環境」を通した学びを行うことは、自ら課題を見つけて解決策を考え、行動することのできる「生きる力」を育むことに繋がるといえます。

子供達の自然体験活動場の拡大を!!

このような自然体験による「生きる力」を育む効果を、子供達に広げていきたいものです。

そのためには、市民活動団体のみならず、地域住民、自治会、支え合い協議会、ボランティア団体や保育園・幼稚園、学校と連携し、地域の里山を活用して、自然体験活動を広めていきたいと考えています。特に、鶴ヶ島市は、市民の森や太田ヶ谷の森など市民が自由に利用できる里山があります。

これを活用して、子供達に自然体験プログラムを提案していけたらと考えています。

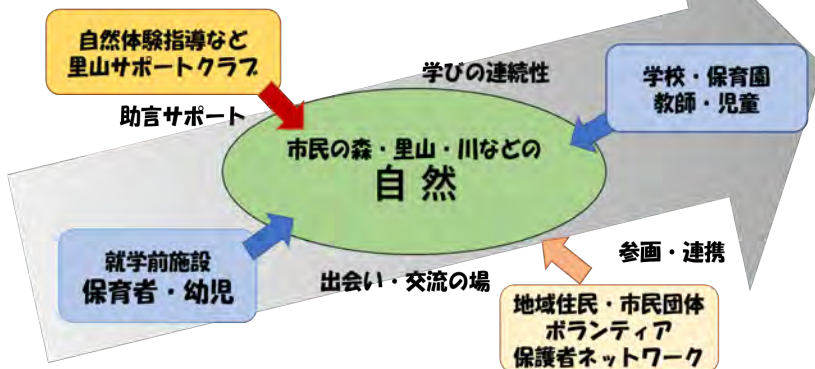
全国には、子供達の自然体験」に多様な支援策を講じている自治体も増えています。

自然体験のきっかけは、指導者の発意による事が多いといわれ、指導者が自然体験を楽しむ、面白い経験が不足している場合が多いと言われます。

特に、管理者のようになってしまい、保育を楽しんでない？、子供と一緒に遊べない？、そもそも保育士が主体的に生きてない！？等の指摘もあります。

このため、自然体験の指導者の皆さんと、自然体験を楽しみ、子供達に伝えてほしいと思っています。その際には、里山サポートクラブはできる限りの支援をしていきたいと思っています。

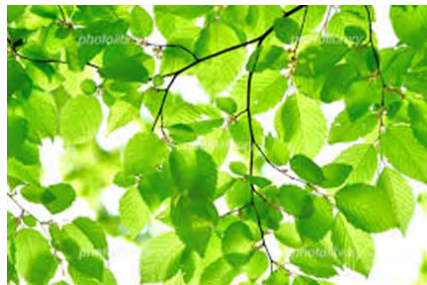
市民の森を共有した保幼小連携の可能性



指導者の課題

- 原体験がない。自然の楽しさを知らない。
- 養成校で習う機会が少ない。忙しい。
- 主体性を促すコミュニケーション方法を知らない。
- 自由な遊びへの関わり方を知らない。
- 子どもと一緒に楽しめない。
- 固定観念に囚われている。
- 自然の知識や野外技術がない。
- 行動に移せない。何をすればいいかわからない。
- 同僚に理解してもらえない。仲間がいない。
- 安全管理が不安。
- 親に説明できない。

資料: 上越教育大学大学院 山口美和氏)を参考に作成



NPO法人 つるがしき里山サポートクラブ

この冊子は公益財団法人イオン環境財団の助成を受けて印刷しています